

平成29年度第7回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「桜川源流域の植物を学ぶ～富谷観音周辺の照葉樹林」を実施しました。

開催日時：平成29年9月30日（土）午前9時00分から午後3時45分まで

開催場所：桜川市富谷 富谷観音から富谷ふれあいの森

参加者：33名

今回の自然観察会は、桜川源流域にある富谷山にある小山寺（富谷観音）の周辺にある照葉樹林の植物観察を行いました。霞ヶ浦流域は山林の割合が約3割と少なく、今回の観察地のような流域河川の山林源流域は水を涵養する大切な機能を担っています。

観察は富谷観音参道入口からスタートし、富谷観音境内へ向けて登りながら進みました。富谷観音周辺は、まとまったスダジイなどの樹林としては北限に位置し、山の南斜面に面することから、暖かくて多くの暖地性植物を見ることができました。極相はスダジイなどの常緑照葉樹林の林となります。

スダジイの巨木は幹も大きく立派で、頭上を見上げるとスダジイの葉が少しでも多くの光を獲得しようと空を覆いつくすように葉を広げている様子に植物の巧みな生存戦略を学ぶことができました。そのため常緑照葉樹の林は日陰となりますが、湿った日陰の環境を好むシダ植物などを数多く観察することができました。

福田先生の解説はいつもながらユニークで覚えやすく、「ゴンズイの名前の由来は魚のゴンズイと同じで役に立たないことから。役に立たない人がいたらゴンズイと呼んでやりましょう。」の言葉に一同大笑いでした。

小山寺（富谷観音）境内には12時過ぎに到着し、昼食・休憩を取りました。休憩後は午後1時から30分ほど、お寺の方に本堂に入れていただき、小山寺の説明をしていただきました。小山寺は聖武天皇の後（益子出身）が若くして亡くなったため、故郷の近くで弔うために建てられた由緒あるお寺であること、三重塔は室町時代に銀閣を建立した人物が建立したものであることなどを教えて頂きました。なお、三重塔は国指定重要文化財であり、ほかにも県や市の重要文化財に指定されているものがたくさんありました。境内にある大杉は樹齢700年にもなるそうです。

最後に富谷観音から富谷ふれあいの森まで植物を観察していきました。富谷ふれあいの森にある展望台は眺望がとても良く、雨引山、加波山、筑波山の山並みや平地に広がる広大な水田や花盛りの蕎麦畑を見下ろすことができました。

当日はさわやかな陽気で絶好の観察日和にも恵まれ、充実した観察会を行うことができました。福田先生には11月に霞ヶ浦自然再生地区で行う湿生植物の観察会の講師をお願いすることになっています。

参加者のみなさん、福田先生、パートナーのみなさん、ありがとうございました。

観察した植物はおよそ120種類でした。

環境活動推進課 福井正人

観察会の様子と観察した植物の一部を御紹介します。



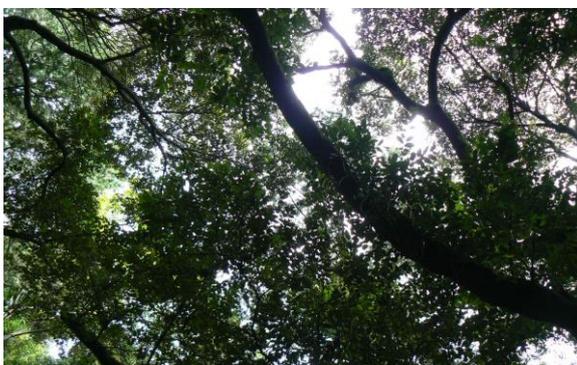
参道入口から観察を始めました。



講師の福田先生です。



スダジイの太い幹



スダジイの葉が空を覆います。



ナンテンの葉。



小山寺本堂（上）
三重塔（右）



ゴズイの赤い実、きれいです。

展望台からの眺めです。

